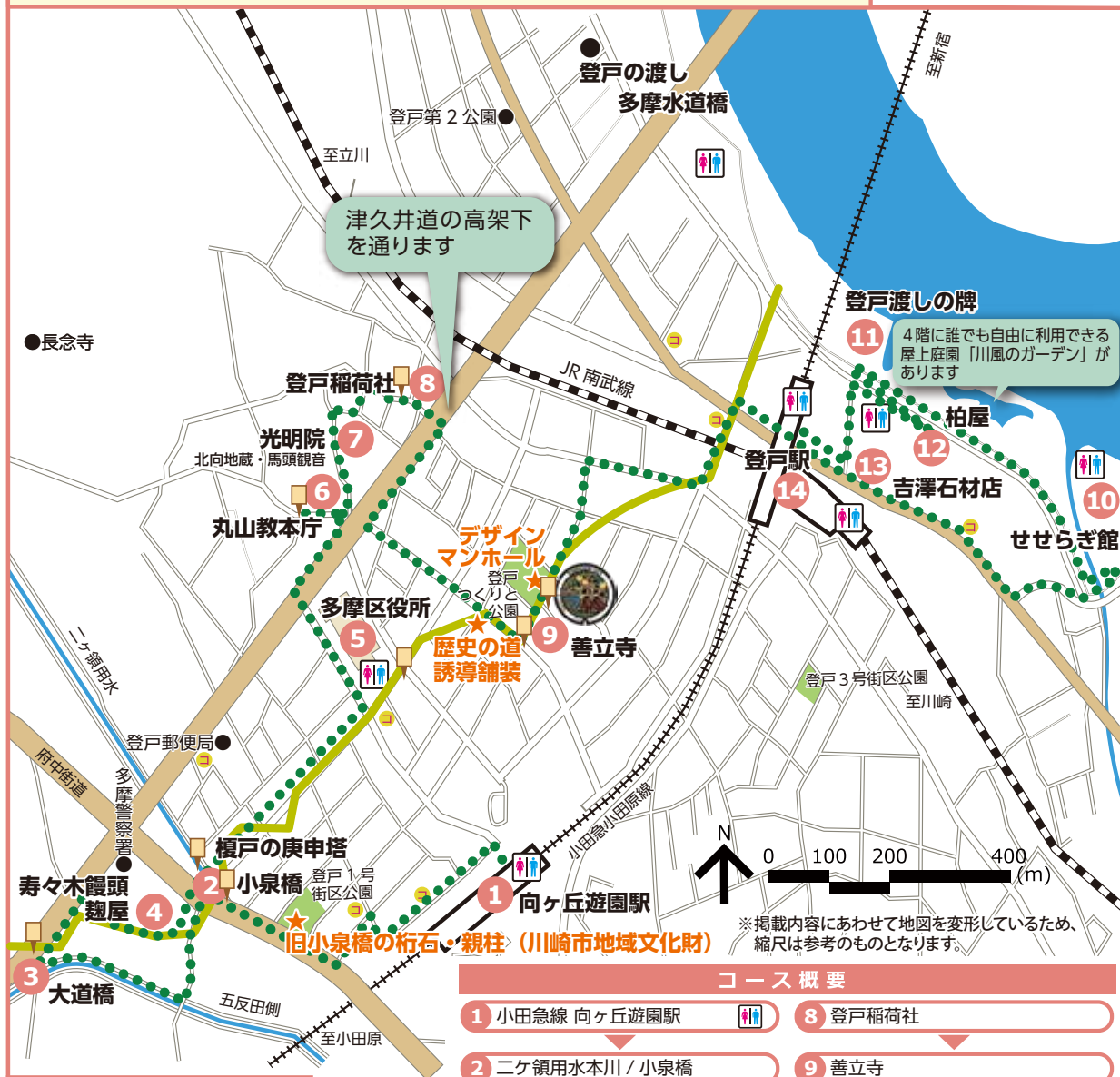


旧津久井道(登戸宿場の歴史と今)

水と緑と学びのまち! 多摩区。多摩川と旧津久井道が交わる登戸は江戸時代より物流の拠点であり、多くの商人や職人が行き交う町でした。新しく生まれ変わる町並みから、昭和・江戸時代の面影をたどります。

距離: 6km
時間: 3時間
難易度: ふつう



凡 例

- ルート
- サブルート
- 旧津久井道のルート
- ① 主なみどころ
- トイレ
- コンビニ
- 川崎歴史ガイドパネル

コース概要

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1 小田急線 向ヶ丘遊園駅 | 8 登戸稲荷社 |
| 2 二ヶ領用水本川 / 小泉橋 | 9 善立寺 |
| 3 大道橋 | 10 せせらぎ館 / 宿河原堰 |
| 4 寿々木饅頭屋・翹屋 | 11 リバーサイドポイント (柏屋) |
| 5 多摩区役所 | 12 登戸の渡し |
| 6 丸山教本庁 | 13 吉澤石材店 |
| 7 光明院 (北向地藏 / 馬頭観音) | 14 小田急線 / 南武線 登戸駅 |

※写真は稲田郷土史会提供

①小田急線「向ヶ丘遊園駅」

昭和2年(1927年)に小田急線が開通。当時の駅名は「稲田登戸駅」でしたが、向ヶ丘遊園の再整備に伴い、昭和30年(1955年)に現在の駅名となりました。北口駅舎は建設当時のままの姿であり、昭和のレトロな雰囲気のある屋根の形が、懐かしい趣を醸し出しています。



昭和 20 年代後半

②小泉橋（登戸1号街区公園に旧小泉橋の銘文入の桁石と親柱展示）

小泉橋は江戸時代につくられた「二ヶ領用水」にかかる橋で、豪農小泉利左衛門により天保15年(1844年)に木造の橋から石造りの橋に架け替えられました。さらに明治33年(1900年)、ひ孫の小泉弥左衛門によって古い石材を生かして作られた県内最古級の歴史ある石橋でした。府中街道と交わる榎戸と呼ばれたあたりは、津久井道に繋がる交通の要所として栄えた場所です。



明治 34 年

榎戸の庚申塔

榎戸の庚申塔は江戸時代に盛んだった富士講の一つ・登戸の丸山講(現在の丸山教)によって明治3年(1870年)に建てられたものです。登山前に庚申塔の前で安全を祈願し、下山後も参拝する富士信仰の大切な場所だったと言います。

庚申塔は中国伝来の庚申信仰に基づいて建てられたもので、外から災いが入りこまないように祈る信仰のよりどころでもありました。榎戸の庚申塔は周辺の改修工事で二度も仮移転しましたが、平成27年(2015年)、もとの小泉橋そばに戻ってきました。



平成元年

⑨善立寺

善立寺は、明治5年(1872年)明治政府より「小学校則」が発表されると、翌6年(1873年)には早くも「登戸学舎」として本堂で小学校教育をスタートさせたという、「小学校教育」発祥の場です。また、江戸時代後期に、二ヶ領用水の水利権争いが40年にわたり続いたとされる記録「用悪水出入一件」(古文書)が今でも残っており、また名主や年寄りと共にこの争いの調停に奔走した玉川屋敷井上弥兵衛が建立した妻の供養塔も境内に建てられています。



平成 9 年

⑩登戸の渡しと多摩水道橋

昭和28年(1953年)に多摩水道橋が完成するまで、この場所には橋がありませんでした。多摩川に橋がかかるまで、川崎と東京を結んでいたのが渡し船で、下流から六郷・矢口丸子・二子・そして登戸・菅にありました。多摩水道橋は東京都に水を送るためにできた水道との併用橋とされ、この橋の完成によって「登戸の渡し」はその長い歴史に幕を閉じました。



昭和 20 年代後半

⑫リバーサイドポイント柏屋

登戸は、小杉や溝の口に比べ、居酒屋・煮売りやが多い、さかり場的な賑わいのある宿場でした。その中で柏屋は、旅人を泊めていた登戸宿場時代からの老舗です。明治の末には料理屋を兼ねるようになり、多摩川行楽客に鯰料理等を振る舞い、喜ばれたとされています。現在も「鯰のスッポン煮」を食べた巖谷小波の句碑や飯田九一の鯰の絵が残っています。



昭和 2 年